

令和8年5月26日  
島根県立松江北高等学校（担当）福島 美幸  
TEL：0852-21-4888 FAX：0852-21-4977  
E-mail：matsuekitakoko@pref.shimane.lg.jp

## 全国高校生マイプロジェクトアワード2025 文部科学大臣賞受賞者による知事及び教育長への訪問

### ■内 容

自分自身の実現したいことや変えたいことをテーマにプロジェクトを立ち上げた全国の高校生がその取り組みを発表し、他の高校生のプロジェクトから学ぶことで「次の一歩を考える、全国高校生マイプロジェクト実行委員会が主催のコンクールです。2026年3月20日から22日に、各都道府県のロールモデルとして推薦された48プロジェクトが集まる「全国 Summit」が開催されました。

そのロールモデルとして推薦され「全国 Summit」に参加した、島根県立松江北高等学校 岩本 実久（いわもと みく）さんが、全国1位相当の文部科学大臣賞を受賞しました。

本コンクールの成果の報告について、このたび丸山知事及び井手教育長への訪問を下記のとおり実施させていただきます。

### ■表敬訪問

#### ・知事

日 時 令和8年6月15日（月） 16時10分～16時30分  
場 所 島根県庁 知事室

#### ・教育長

日 時 令和8年6月15日（月） 15時30分～15時50分  
場 所 島根県教育庁 教育長室

・訪問者 松江北高等学校 3年 岩本 実久（いわもと みく）  
有限会社加島茶舗 加島 浩介（かしま こうすけ）＊「まるで抹茶」共同開発者

### ■コンクール詳細

- 1 名 称 全国高校生マイプロジェクトアワード2025
- 2 趣 旨 高校生マイプロジェクトが大切にす、想いや問いをもちながらアクションし、そのプロセスからの学びを言語化し、「その先」につなげる動きを後押しする機会を提供する。
- 3 主催等 主催：全国高校生マイプロジェクト実行委員会  
後援：文部科学省  
協力：株式会社マザーハウス
- 4 開催日 2026年3月20日（金）～22日（日）（於 昭和女子大学）

5 審査基準（主催者 HP より、2025 年度は「審査基準」を「推薦の視点」と名称変更）

■推薦の視点(書類選考・動画選考)

主体性（オーナーシップ）	自ら意志を持ってゴールの設定や取り組みの推進（※）をしてきたか ※調査や実験も含む
	目指す未来に向け、好奇心をもって試行錯誤や挑戦をしてきたか
共生・協働（コ・クリエーション）	異なる存在/視点があることを前提にして、多様な人たちと対話し、協力しながら取り組んできたか
	独りよがりではなく周囲に好影響を与え、価値を創りだしてきたか
振り返り・内省（リフレクション）	自分自身やチーム、あるいは関係したヒト/コトの変化や成長、そのきっかけを捉え、自分自身の考え、心の状態や行動を振り返って言語化している
学び（ラーニング）	プロジェクトを通じて自分（たち）なりの学びを得て、目指す未来に向けて活かそうとしているか（問いや仮説を描き続けていることも含）

■推薦の視点(Advanced/全国)

ロールモデル性	上記の視点も踏まえ、発表・対話を通して、よりよい未来を「わたしからはじめる」ためのヒントを示してくれた※発表・対話の時間を共に過ごすサポーターがこの観点をもって次のステップへ推薦。
---------	--

6 応募総数と賞

- (1) 応募総数 3,463 プロジェクト (9,441 名)
- (2) 賞 文部科学大臣賞、高校生特別賞、マイプロジェクトアワード特別賞、  
全国ロールモデル賞 supported by しんくみ トヨタ自動車、地域 Summit 各賞など

7 生徒のプロジェクトの内容

- (1) プロジェクト名 「ノンカフェイン抹茶で守りたい！松江の茶の湯文化」
- (2) プロジェクト内容  
地元の老舗「加島茶舗」と、ノンカフェインの抹茶風パウダー「まるで抹茶」を共同開発し商品化。地域イベントでの提供だけでなく、全国に向け販売。カフェイン摂取困難な妊婦や子どもなどにも「茶の湯文化」に親しんでもらい、松江の伝統文化を未来へつなぐ取組。
- (3) プロジェクトの経緯等（生徒作成）

私は、午後に抹茶を飲むと眠れなくなるカフェインに弱い体質により茶道部入部を断念した。この悔しさと、伝統ある松江の緑茶消費量低下への危機感から、体質や環境に関わらず誰もが同じ空間で茶の湯を楽しめるノンカフェイン抹茶の開発を決意した。

地元の老舗「加島茶舗」に直談判し、共同開発を開始。試行錯誤の末、ほうれん草と1%のバニラという異素材の組み合わせにより、見た目や風味、泡立ちを極限まで再現した完全ノンカフェインの抹茶風パウダー『まるで抹茶』を商品化した。地域イベントでの提供や全国販売を通じ、普及を進めている。

「茶葉を使わないのは伝統の破壊ではないか」という葛藤もあったが、松平不昧公が重んじた「お好きにどうぞ」という形にとらわれない寛容な精神「おもてなしの心」に立ち返り、伝統の本質とは形への固執ではなく「参加できる人を増やし続けること」だと再定義した。この、個人の不自由を社会の可能性に変えるリフレミングの姿勢と、伝統の本質を再定義したプロセスが評価され、全国高校生マイプロジェクトアワードにて最高賞の文部科学大臣賞を受賞。今後も伝統文化への架け橋となるよう活動を広げたい。